

Université Charles-de-Gaulle-Lille3

シャルルドゴールリール第三大学 (仏)

文責 山本 冨里

1. 全体的な状況

日本学セクションはロマン・スラブ・東洋語学科に属し、教員9名・学生200名強(2007-2008年度)をかかえる大所帯である。教員9名のうち、1名が教授、3名が准教授、1名が単年度契約の常勤言語講師、3名が非常勤講師、1名が他学科所属教員という構成になっている。以上が学士にあたるLicenceの陣容であり、所属する学生達は日本学を専門に学ぶ。このほかに、非専門の学生や学外から日本語を学びにくる人が130名強(2007-2008年度)いるので、本学で日本語を学ぶ人は、合計350名ほどになる。

学部にあたるLicenceの年度構成は3年間6学期であり、各学期には12週間の授業時間がある。講義・授業科目はUE(Unites d'Enseignement:教育単位)に基づいて配置されていて、学期ごとにそれぞれ6つのUEがある。UE1からUE6までのうち、日本学関係の複数科目で構成されているのは、UE1からUE4までである。UE5は他の現代言語学習に宛てられ、UE6は自由科目として、バラエティに富んだ科目から選択することができる。

2. 日本語学習関係科目の構成

Licenceの日本語学習関係科目の構成は、次頁表の通りである(2008-2009年度現在)。日本語学と文法科目は原則的にフランス語を使用し、一斉講義の形式で行われる。書記表現・読解など言語運用を主体とする科目では原則的に日本語を使用し、1年生に限っては、グループに分かれて授業を行う。2007-2008年度は2グループ制(1クラス約60名)であったが、あまりに大人数であるため、2008-2009年度は、3グループ制をとることになっている。なお、教科書は、1・2年生においては『みんなの日本語I』および『みんなの日本語II』(スリーエーネットワーク)と『Kanji & Kana』(Librairie J. Maisonneuve)を使用している。3年生は、漢字学習については、引き続き『Kanji & Kana』を使用して自主学習を続けることになっているが、文法や言語運用科目に関する教科書は指定されておらず、各担当教師の自主判断で授業を行っている。3年生学年末までの到達目標は、CEFRの枠組みでB1-B2である。

3. 学生状況

2007-2008年度の登録者数は、1年生119名・2年生50名・3年生37名である。この数字から明白であるように、上級学年へ進むことは、決して簡単ではない。中等教育修了資格(Baccalauréat)取得後、すぐに本学に進学した学生のうち、日本学を専門にして3年間で学士号取得まで至った者は、4.9%にすぎない(2004年Baccalauréat取得・2007年学士号取得の場合)。ただ、1年生の人数が多いのは、他学科の上級学年で学びながら日本学も専門として学び始めるという学生や、2年生へ進むのに失敗して再登録した学生が多いせいもある。

既習者の入学も増えてきているが、シラバスは学生達が日本語学習経験のない状態で入学してくることを前提として組まれており、ひらがな学習から始められる。既習者に対応するための特別なクラス編成は行われていない。

在学中の日本滞在としては、1) 愛知県立大学と交換留学協定が結ばれており、毎年1名が交換留学生として留学する。2) 過去に何名か、ISEP(The International Student Exchange Program)を利用し

て留学した学生がいる。3) 長期休暇を利用して、あるいは卒業後にワーキングホリデービザを取得する形で日本に行く学生は、毎年複数見られる。4) 稀に私費で留学を果たす学生も見られる。5) 文部科学省奨学金留学生選考試験に挑戦する学生もいるが、これは非常に難関である。卒業後は、他大学修士課程を含め進学する学生もいるが、現在までのところ、まとまった進路調査はなされていない。

表：日本語学習関係科目の構成

	学期		科目数	h/週	学期時間数	累計時間数
1年	1	日本語学への導入	1	1	12 h	114h
		文法	1	1	12 h	
		文法練習	1	1	12 h	
		翻訳	2	2	24 h	
		書記表現と読解	2	2.5	30 h	
		理解と表現	2	2	24 h	
	2	同上	計9	計9.5	計114h	228h
2年	3	日本語学	1	1	12	300h
		文法	1	1	12	
		翻訳	1	1	12	
		書記表現と読解	1	1	12	
		理解と表現	2	2	24	
	4	同上	計6	計6	計72h	372h
3年	5	日本語学	1	1	12	462h
		古典	1	1	18	
		日本語自動処理	1	1	12	
		翻訳 (仏→日)	1	1	6	
		翻訳 (日→仏)	1	1	6	
		理解	1	1	12	
		表現	1	1	12	
		日本語学 (選択)	1	1	12	
	6	同上	計8	計8h	計90h	552h

4. 今後の課題

現在、CEFRに基づく形でシラバス・カリキュラムの改編中である。その試行錯誤を通して本学における日本語教育のオリジナリティを見つけていきたい。まずは、授業担当者間の対話を増やすこと・学習リソースの充実・学生の自律的学習能力育成が不可欠であると考え。また、2008-2009年度から新入生に対するレディネス等の調査が始まったが、前項に記したように卒業後の進路調査はなされていないので、今後は入り口と出口をきちんと押える必要がある。

※なお、4. 今後の課題の内容については、報告者の主観的な意見であることを付記しておく。